

SSRI

ちょっと一言

Give me a break !

INF 全廃条約破棄の意味するもの

藤岡智和

昨日トランプ米大統領が INF 全廃条約破棄の意向を示したとマスコミ各社が報じています。報道各社は口をそろえて、この結果核競争が再燃するとしています。しかし INF 全廃条約は中距離の核兵器そのものを全廃する条約ではなく、その運搬手段である射程 500～5,500km の地上発射ミサイルの開発及び保有を禁止した条約なのです。

米露は”建前上”この種ミサイルを保有していませんが、北朝鮮は No Dong、Musudan、火星-12、北極星-2 など、中国も M-9 (600km)、DF-16 (800～1,000km)、DF-21 (1,600km)、DF-26 (3,000～4,000km)をはじめとする各種 INF を大量に保有しています。韓国ですら射程 800km の玄武-2C を開発しています。

これらの各種ミサイルは核弾頭の搭載も可能ですが、北朝鮮を除き殆どが通常弾頭ミサイルとして位置づけられています。中国の DF-21D や DF-26 は対艦弾道弾と見られています。

これに対し米国は通常弾頭を搭載してもこの種射程のミサイルは条約の縛りから保有どころか開発も禁じられています。このため苦し紛れに射程を 499km にまで延伸する計画などというものがあるものの、量的に中国に圧倒的な差をつけられています。今日の技術ですればこのような射程でもピンポイントの攻撃が可能であるため、この種ミサイルが非核戦争でも多用されることが懸念されており、かねてから米国は危機感をもっていたことから、INF 全廃条約破棄は時間の問題であって、なにもトランプ大統領の強い個性によるものではないのです。

今回「ロシアが条約を守っていないから」というのを破棄の理由にしていますが、これは言いがかりに過ぎません。(2018 年 10 月 22 日)